

京都市地域・多文化交流 ネットワークサロン通信

発行日 2025年3月31日 編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン 第48号

「藝術・文化や共生にかかわる生態系をひらくトークシリーズ」 第一回お話会（2月8日）開催報告

京都市地域・多文化交流ネットワークサロンは、京都市内で芸術家の支援事業を担うHAPSと共催で、登録団体をお招きした「お話会」を開催しました。

アフガニスタンで40年以上に亘って民主主義やジェンダー平等、平和を求めて活動してきたRAWAという現地の女性団体があります。今回は、そのRAWAとつながって日本から支援する「RAWAと連帯する会」から北垣由民子さんをお招きしましたので、内容の一部を報告します。

＜HAPS 石井さんより＞

HAPSは、この社会における芸術家や表現者というものは何なのだろうか、どういった存在なのだろうかということを、広く豊かな創造性が社会の中に広がって循環していく、巡っていくということを考えながら、京都市内で若手芸術家の支援事業をしました。そういった中で、文化芸術を通して、多様な存在が共に生きることのできる社会のあり方を広く探り、その仕組みづくりを目指す事業——もう少し噛み砕いて



女性だけの集まりで着ることができるお手製のドレス
（お話会の案内より）

いうと、芸術・文化・共生というものを様々な方とともに考えて、新たなとりくみを行っていく事業（文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業モデル事業）を2017年度からしてきました。そして、その延長上で東九条地域、ネットワークサロンとの関わりを持ってき

ました。ネットワークサロンは、いろいろな背景を持つコミュニティが登録し、「幅広い多文化共生社会」を目指して活動しています。今回の「お話し会」は一緒に企画しました。このような形で協働するのは今回が初めてです。たくさんの登録団体の方々がいらっしゃるので、その力を借りて、この世界で生きるいろいろな存在と知りあって、交流し、時に協働するきっかけの場になればと思っています。

アフガニスタンの女性の自由の制限というのは年々深刻になってきているにも関わらず、なかなかニュースなどでは報道されなくなってきている実態があります。文化のありようが変化していることも聞きます。北垣さんは、自身もアフガニスタンに行かれたり、留学生が日本に来た時には受け入れたり、そういった関わり合いをしてきたということで、北垣さんの視点から今お考えになっていることであったり、見てきたこと、それからRAWAの活動についてお話しいただければと思います。

<RAWAと連帯する会 北垣由民子さんのお話し>

私がアフガニスタンに初めて行ったのは王制の時代でした。王様が非常に民主的な人で、議会の制度を取り入れたり、女子の教育とか、ある意味西洋的な制度をとって、カブールの町では女学生たちが普通にスカート姿でヴェールもせずに歩いていましたし、小さな女の子が一人で通学路を歩いていたり、非常に平和な風景でした。田舎の方に出た時には、貧しい国だけれども、みんながのんびりと楽しく、例えば路上にレーズンが積み上げてあって、レーズンの山をシャベルで袋に詰めていました。それから有名な大きな大仏のあるバーミヤンも行きましたけれども、十数メートルの仏さまが立派に立っていて、裏に階段がついているんですね。本当に岩をくり抜いた階段で、落ちたら死ぬんじゃないかと思うような怖い階段を後ろからずっと登って、仏さまの頭の上まで登りました。そこで住んでいる人たちも、本当にのびやかに農業しておられて、なんとね、日本の青年がいたんです。その時代は世界中にヒッピーがいる時代で、日本のヒッピーもバーミヤンにいました。彼



撮影：成田舞（Neki inc.）、提供：HAPS

はバーミヤンの農民のお家に住み込んで農業を手伝っていました。そのような非常にのんびりしたアフガニスタンを見てきました。

その後、内戦が起こりまして、1979年にはソ連が入って、アフガニスタンはますます社会主義的な国になって一度は社会主義と西洋の文化が入ったような国になりました。その時

に青春を迎えた人が、RAWAを作り上げたミーナという女性なんです。ミーナはソ連時代の男女共学の、ヴェールもかぶらない、そういう教育の中で育った人です。けれどもそれはごく上層部の話で、アフガン全体としては、古い伝統文化の中に暮らしてたわけです。その中でミーナは女性たちを密かに集めて新しい思想の話をみんなでするわけです。そういう中からRevolutionary Association of the Women of AfghanistanでRAWAというグループを立ち上げました。

アフガニスタンはそのうち内戦の時代に入ってしまうわけですけど、ミーナはそのあたりから思想的なことで付け狙われることになって、暗殺をされてしまいます。けれども、RAWAという女性団体は今も生き残っています。もちろんイスラム共和国ですから、民主主義とか女性の権利とかいうようなことは一切認めない政権下にある中で、今は地下に潜っているという感じです。

アフガニスタンは女性の識字率、読み書きができる率が非常に低くて、男性で50～60%、女性は今でも30%を越したか越さないかという風に言われています。そういう人たちのためにRAWAの女性たちは動き出すんですけれども、タリバンの勢力が強くなった時には、たくさんのアフガニスタンの人たちがイランとパキスタンに難民となって出ます。その数は300万とも400万とも言われていて、RAWAの女性たちの活動はパキスタンに移ります。1996年にタリバン政権が成立した辺りから、パキスタンにRAWAの学校、小学校、中学校、高校としてヘウドハイスクール校を作って運営します。私も日本のRAWAの団体（RAWAと連帯する会）が出来たのは、2000年になるちょっと前、ちょうどパキスタンに多くの難民が出た頃に、今の私たちの会長をしている人がRAWAのメンバーと知り合って支援するようになりました。

RAWAというのは、女性解放とかフェミニズム的な考え方ですから、公のところからお金をもらう、寄付をいただくという風な、アフガニスタンの政府も認めている団体のような動き方は全くしていません。だから私たちは公的な補助金とか、そういうものは一切受け取っていません。学校というのは政府から認められないと、次の段階、中学、高校と進学できませんから、そういうところからは見えない形で支援をしています。今、私たちが一番中心に支援しているのは、パキスタン国境に近い帰国避難民キャンプに開校した小学校です。

学校は中村哲さんがいらっしゃった所と同じ州で、中村哲さんが作られた用水用の運河ともかなり近いところにある難民キャンプにあります。アフガニスタンの政変が前の時代

に起きた時に、非常に沢山の人がパキスタンやイランに出て、その人たちがイランからも、パキスタンからも居てもらっては困るという形で故郷に帰ってくるわけです。彼らが住んでいた土地というのは、乾いた雨量の少ない国、例えばイランでは、カナートといって、水路を地下に通してそこに井戸を掘って、そこから水をくみ上げて農業用水にしたりするというようなことをアフガニスタンでもしていたんですけれども、たくさんの難民が出ている間に、そこは埋まってしまったり、破壊されてしまって、故郷に戻っても農業ができない。そういうことでまた、パキスタンに近い国境沿いのところに難民キャンプができてしまうわけです。その人は、それぞれアフガニスタンの中で日雇いの仕事に出たり、難民キャンプの中でいろいろと物を融通し合って、難民キャンプの中に大きなコミュニティができて、その中で教育が必要だということで、私たちは今、RAWAの女性たちにお金を送っていて、学校を建てています。もちろん難民キャンプの中に公立の学校もあるんですけれども、子どもを全部収容したり、十分な教育をしたり、ちゃんと校舎があったりということは全くできていない状態なので、小学校を建てています。けれども、これは海外からの援助ということは、実は内密にされています。ですから難民がパキスタンにいた時はパキスタンにヘウドハイスクール校、パキスタンからはアフガニスタン難民はほとんど全部アフガニスタンに返されましたから、巨大な難民キャンプの中で小学校を創立して運営しています。RAWAの女性たちは、他の医療活動とか、広く活動しているんですけど、私たちはこの小学校支援に限っていて、イタリアと日本で校舎の立ち上げから全部やっています。けれども、（タリバン政権が）知らないふりをしているのか、本当に知らないのかわかりませんが、現地では、アフガニスタンの富豪の支援により学校が建っているんだということになっているのかもしれませんが。小学校では教室や廊下の壁にもいろいろと楽しいカラフルな絵がいっぱい描いてあります。そこに行くのが子どもたちを楽しい気持ちにしてくれます。200人近い子どもが通っています。

Q.クラスは共学ですか？

はい、共学です。タリバンの政策は教室を（男女を）分けなければいけない。小学校までは女の子も通学が認められていますけれども、中学校以上は認められていないんです。いろいろなところで女性が活躍するべきだという思想の女性たちはたくさんいます。密かに識字教室やなんかは行われています。

イスラムの教えの中では、女性は尊重されねばならない。私たちが考える尊重するとは違って、女性は子どもを産む、だから家に大事にしまっておいて、女性は男性に従うこと

で幸せを得られるのだという考え方なんだというふうに思います。例えば、私が体験したのでは、ちょうど2018年か2019年に行ったところ、私たちはアフガニスタンに入国できなかったのですが、パキスタンとアフガニスタン国境付近にアフガン難民の方たちの村ができていまして、そこを訪問しました。お昼すぎの時間で、大人はほとんど全部働きに出てしまっていて、女性はきっと顔を出さなかったと思うんですが、子どもたちってみんな好奇心が強いから、男の子も女の子もみんな出てくるんです。わーっとね。そこで私たちがショックを受けたのは、男の子たちが棒を振り回したりして、女の子たちを家の中に追い込んだんです。彼らからすれば、得体の知れない人間が入ってきたから守る、そうだったと思うんですけども、子どもの時から女は出てくるなというような価値観を持っているのだなと。女は保護しなくちゃいけないんだというのがどんどんエスカレートした場合には、子どもの時からそういう価値観になるのだなあというふうに思って。女の子たちはみんなね、窓の隙間から一生懸命覗いているんですね。好奇心を持ってね。恐らく今のアフガニスタン全体は、そういうふうな状態に追い込まれているんだと思います。RAWAの女性たちは、目に見えない、表に出ないようにしながら活動をしています。

Q.具体的に支援ができるとしたら、何をどうしたらいいですか？

（RAWAと連帯する会の）ニュースレターの報告とか、数か月にいっぺんは講演会を東京でも北海道でも関西でもするんですけど、それで話を聞いていただいて、信用していただいて、そして支援してくださる、というものに頼っています。イベントでがんばってジャムを売って利益を上げようとかね。私はジャムを作るのが非常に好きなので、そういう自分の楽しさも含めて。それからRAWAと連帯する会の送付用の封筒の発注とかニュースレターの印刷発注とか、私はそういう下働きをしています。このような支援の方法もあるのかもしれませんが。

※「RAWAと連帯する会」のウェブサイトに掲載されているニュースレターからは、より詳しい最新の情勢を知ることができますので、あわせてご覧ください。また、会員になってRAWAの女性たちを支援することもできます。



撮影：成田舞（Neki inc.）、提供：HAPS

■RAWA (Revolutionary Association of Women of Afghanistan) とは

1977 年アフガニスタンの首都カーブルでミーナーという女性により設立されたフェミニスト団体。女性への抑圧が強いアフガニスタン社会の中で、イスラム世界では稀な女性による団体として民主主義・政教分離・ジェンダー平等・人権・平和などを求めて活動しています。ミーナーは暗殺されましたが、その運動は今に引き継がれています。主な活動は学校教育・識字教育・医療活動・社会活動・出版などです。アフガニスタンの現状を積極的に海外に発信しています。<http://www.rawa.org/index.php>

**■RAWA と連帯する会(Friends of RAWA Japan) とは**

「アフガニスタン民衆法廷 (ICTA)」活動を経て、2004 年にアフガニスタンのRAWAを支援し、連帯する目的で結成されました。講演会・映画上映会・学習会・文化交流などを通してアフガニスタンや RAWA の活動などを紹介しています。ニュースレターの発行・書籍の出版・物品販売などもしています。とりわけ、アフガニスタン現地での教育活動への支援や緊急時の支援に取り組んでいます。

<https://afgan-rawa.blogspot.com/p/rawa.html>

■一般社団法人 HAPS とは

若手アーティストが京都市内に居住し、活動し続けることができる環境を整え、彼らの新しい創作の活力をまちの活力につなげていくことを目的として活動するアート・インスティテュション。2011年9月にHAPS実行委員会を設立、2019年4月に事務局を法人化。居住・制作・発表支援、仕事コーディネートなど、アーティストへの包括的な支援活動をおこなう。また、2017年からは、文化芸術により多様な背景を持つ人々が共に生きることのできる社会のあり方を探り、その仕組みづくりを目指す「文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業」を実施している。<https://haps-kyoto.com/>

編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン

□所在地：601-8006 京都市南区東九条東岩本町31

□tel：075-671-0108 □fax：075-691-7471

□開館時間：9時～17時 □E-mail：info@kyotonetworksalon.jp

□webサイト：<http://www.kyotonetworksalon.jp>

□JR京都駅八条口・JR京阪東福寺・市営地下鉄九条駅より徒歩15分

□京都市バス202・207・208系統 九条河原町より徒歩10分 16・84系統 河原町東寺道より 徒歩1分